

# 【建築基準法】 偏心率

建物名 伏図次郎【2階】

---

偏心率計算表

偏心率明細表

偏心率平面図

■注意事項

- ・平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づき、偏心率を用いて軸組を釣合い良く配置する方法に準拠した計算を行います。
- ・四分割法と偏心率の判定結果については、平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」により、いずれかの判定が適合となること、とされています。

株式会社インテグラルー級建築士事務所

〒305-0818

茨城県つくば市学園南2丁目7番地

TEL:029-850-3331 FAX:029-850-3334

<https://www.homeskun.com/>

# 注意事項



ホームズ君「構造EX」(以下、本ソフトウェア)は、公益財団法人日本住宅・木材技術センターが実施している「木造建築物電算プログラム認定」において、関係法令や評価方法基準に準拠しているとして、認定書(認定番号:P04-02)の交付を受けております。  
認定対象の計算書・図面には用紙右上に「木造建築物電算プログラム認定」の認定番号が印字されます。

## 【認定の範囲】

本ソフトウェアの認定の範囲を下表にて示します。本ソフトウェアの全機能が認定対象ではありませんのでご注意ください。本ソフトウェアの利用者、並びに本ソフトウェアの計算結果を確認する立場の方は、認定の範囲を十分理解の上、ご利用いただきますようお願いいたします。

### ▼本ソフトウェアの全機能における認定の範囲

●: 認定対象    -: 認定対象外

分類	認定範囲	機能	関係法令等
建築基準法	●	壁量計算	建築基準法施行令第46条「構造耐力上必要な軸組等」第4項
	●	壁の配置(偏心率)	平12建告1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」
	●	壁の配置(四分割法)	平12建告1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」
	●	接合部(筋かい、柱頭柱脚)	平12建告1460号「木造の継手及び仕口の構造方法を求める件」
	-	シックハウス	
住宅性能表示 構造の安定	●	性能表示壁量計算	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ①
	●	床倍率	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ②③
	●	壁の配置(偏心率)	平12建告1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」
	●	壁の配置(四分割法)	平12建告1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」
	●	接合部(筋かい、柱頭柱脚)	平12建告1460号「木造の継手及び仕口の構造方法を求める件」
	●	接合部(通し柱、外周横架材)	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ④
	●	横架材のチェック	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ、1-2(3)ホ、1-4(3)ホ
	●	基礎のチェック	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ、1-2(3)ホ、1-4(3)ホ
住宅性能表示 その他	-	火災時の安全	
	-	劣化の軽減	
	-	維持管理	
	-	温熱環境	
	-	空気環境	
	-	光・視環境	
	-	音環境	
	-	高齢者	
その他機能	-	防犯	
	-	伏図作成機能	
	●	梁せい算定機能	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ、1-2(3)ホ、1-4(3)ホ
	-	等級ナビ	
	-	3D地震被害想定	
-	構造安全性チェック		

## 【木造建築物電算プログラム認定とは】

公益財団法人日本住宅・木材技術センターが実施しているプログラム認定制度です。  
目的は、木造建築物電算プログラムに係る認定を行うことを通じて、木造建築物の品質性能および生産性の向上に寄与し、もって木造建築物の関連産業の発展と国民生活の向上に貢献することとなっています。  
認定にあたっては、学識経験者で構成する「木造建築物電算プログラム認定委員会」が設置され電算プログラムの適切さ(根拠図書との準拠性、プログラム処理の妥当性、誤用防止策等)や運用の適切さ(メンテナンスや苦情処理体制等)について審査が行われます。

# 注意事項



P04-02

## 【建築基準法の計算上の注意点】

- ・ 建築基準法の各判定（建築基準法壁量計算、偏心率、四分割法、柱頭柱脚接合部、筋かい接合部）を行う際の条件や注意点については、各帳票の表紙に注意事項として明記しています。
- ・ 建築基準法の各判定を行う際の耐力壁の壁倍率の扱いは以下の通りです。
  - 建築基準法壁量計算：上限5.0倍（合計値）
  - 偏心率：上限7.0倍（合計値）
  - 四分割法：上限5.0倍（合計値）
  - 柱頭柱脚接合部：上限7.0倍（合計値）
- ・ 建築基準法壁量計算においては設計者が任意に耐力壁を追加することができます。追加した耐力壁は帳票『存在壁量明細表』において国土交通大臣の認定番号が明記されるので確認ください。
- ・ 柱頭柱脚接合部および筋かい接合部判定においては、設計者が任意に接合金物を追加することができます。追加した接合金物は『使用金物一覧』において、木造建築物用接合金物認定などの認定番号が明記されるので確認ください。

## 偏心率計算表

日付: 2023年07月31日 11:55:21

建物コード: 000003

建物名: 伏図次郎【2階】

要素名	階	方向	計算式	計算値	備考
床面積 (㎡)	2	-	2階床面積(バルコニーは含まず、吹抜を含む)	59.62	
	1	-	1階床面積(オーバーハングは含まず、ポーチを含む)	86.12	
重心 (軽い屋根)	2	X座標	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心X座標} \times \text{面積}) \div 2\text{階床面積}$	8.59	
		Y座標	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心Y座標} \times \text{面積}) \div 2\text{階床面積}$	3.84	
	1	X座標	$\{11 \Sigma(1\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積}) + 18 \Sigma(2\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積})\} \div (11 \times \text{床面積}[1\text{階}] + 18 \times \text{床面積}[2\text{階}])$	7.72	
		Y座標	$\{11 \Sigma(1\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積}) + 18 \Sigma(2\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積})\} \div (11 \times \text{床面積}[1\text{階}] + 18 \times \text{床面積}[2\text{階}])$	3.85	
有効耐力壁量 (m)	2	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階X方向壁長})$	12.74	イ
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階Y方向壁長})$	18.20	イ
	1	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階X方向壁長})$	30.94	イ
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階Y方向壁長})$	30.94	イ
耐震要素	2	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階X方向壁長} \times \text{壁のY座標})$	46.37	口
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階Y方向壁長} \times \text{壁のX座標})$	157.34	口
	1	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階X方向壁長} \times \text{壁のY座標})$	139.12	口
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階Y方向壁長} \times \text{壁のX座標})$	216.96	口
剛心座標	2	X座標	耐震要素[2階Y方向] $\div$ 有効耐力壁量[2階Y方向]	8.65	
		Y座標	耐震要素[2階X方向] $\div$ 有効耐力壁量[2階X方向]	3.64	
	1	X座標	耐震要素[1階Y方向] $\div$ 有効耐力壁量[1階Y方向]	7.01	
		Y座標	耐震要素[1階X方向] $\div$ 有効耐力壁量[1階X方向]	4.50	
偏心距離 (m)	2	X方向	絶対値(剛心[2階X座標] - 重心[2階X座標])	0.05	
		Y方向	絶対値(剛心[2階Y座標] - 重心[2階Y座標])	0.20	
	1	X方向	絶対値(剛心[1階X座標] - 重心[1階X座標])	0.70	
		Y方向	絶対値(剛心[1階Y座標] - 重心[1階Y座標])	0.65	
ねじり剛性	2	X方向	2階X方向各壁のねじり剛性の合計	144.69	ハ
		Y方向	2階Y方向各壁のねじり剛性の合計	229.84	ハ
		合計	ねじり剛性[2階X方向] + ねじり剛性[2階Y方向]	374.52	
	1	X方向	1階X方向各壁のねじり剛性の合計	230.50	ハ
		Y方向	1階Y方向各壁のねじり剛性の合計	502.68	ハ
		合計	ねじり剛性[1階X方向] + ねじり剛性[1階Y方向]	733.18	
弾力半径	2	X方向	$\sqrt{\text{ねじり剛性}[2\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[2\text{階X方向}]}$	5.42	
		Y方向	$\sqrt{\text{ねじり剛性}[2\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[2\text{階Y方向}]}$	4.54	
	1	X方向	$\sqrt{\text{ねじり剛性}[1\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[1\text{階X方向}]}$	4.87	
		Y方向	$\sqrt{\text{ねじり剛性}[1\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[1\text{階Y方向}]}$	4.87	
偏心率	2	X方向	偏心距離[2階Y方向] $\div$ 弾力半径[2階X方向]	0.04	
		Y方向	偏心距離[2階X方向] $\div$ 弾力半径[2階Y方向]	0.02	
	1	X方向	偏心距離[1階Y方向] $\div$ 弾力半径[1階X方向]	0.14	
		Y方向	偏心距離[1階X方向] $\div$ 弾力半径[1階Y方向]	0.15	

※ 備考に記号のあるものは、「偏心率明細表」を参照してください。  
 ※ 重心(1階)は、1階および2階の形状を考慮して算出しています。  
 ※ 1階重心(X,Y座標)における係数は屋根の重さによって変動します。  
 (重い屋根:15 軽い屋根:11)

## ■偏心率の判定

各階・各方向の偏心率がすべて0.30以下になる場合 → 適合

各階・各方向の偏心率がひとつでも0.30を超える場合 → 不適合

偏心率判定

適合

# 偏心率明細表 (1階X方向)

日付: 2023年07月31日 11:55:21

建物コード: 000003

建物名: 伏図次郎【2階】

## ■ 1階X方向

通り	Y座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心Y座標	ねじり剛性
	A	B	C	D=B×C	A×D	E=(口)÷(イ)	D×(A-E) <sup>2</sup>
y0	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	4.50	36.80
y0	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	4.50	36.80
y0	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	4.50	36.80
y2	1.820	2.00	0.910	1.82	3.31	4.50	13.04
y4	3.640	2.00	1.820	3.64	13.25	4.50	2.67
y4	3.640	2.00	1.820	3.64	13.25	4.50	2.67
y4	3.640	2.00	0.910	1.82	6.62	4.50	1.34
y6	5.460	2.00	0.910	1.82	9.94	4.50	1.69
y8	7.280	2.00	1.820	3.64	26.50	4.50	28.20
y8	7.280	2.00	1.820	3.64	26.50	4.50	28.20
y8	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	4.50	14.10
y8	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	4.50	14.10
y8	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	4.50	14.10
				30.94	139.12		230.50
				イ	口		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

# 偏心率明細表 (1階Y方向)

日付: 2023年07月31日 11:55:21

建物コード: 000003

建物名: 伏図次郎【2階】

## ■ 1階Y方向

通り	X座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心X座標	ねじり剛性
	A	B	C	D=B×C	A×D	E=(口)÷(イ)	D×(A-E) <sup>2</sup>
x0	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	7.01	89.50
x0	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	7.01	89.50
x4	3.640	2.00	0.910	1.82	6.62	7.01	20.70
x4	3.640	2.00	0.910	1.82	6.62	7.01	20.70
x4	3.640	2.00	0.910	1.82	6.62	7.01	20.70
x6	5.460	2.00	0.910	1.82	9.94	7.01	4.39
x6	5.460	2.00	0.910	1.82	9.94	7.01	4.39
x6	5.460	2.00	1.820	3.64	19.87	7.01	8.77
x10	9.100	2.00	1.820	3.64	33.12	7.01	15.86
x11	10.010	2.00	1.820	3.64	36.44	7.01	32.71
x11	10.010	2.00	0.910	1.82	18.22	7.01	16.35
x14	12.740	2.00	0.910	1.82	23.19	7.01	59.71
x14	12.740	2.00	0.910	1.82	23.19	7.01	59.71
x14	12.740	2.00	0.910	1.82	23.19	7.01	59.71
				30.94	216.96		502.68
				イ	口		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

# 偏心率明細表 (2階X方向)

日付: 2023年07月31日 11:55:21

建物コード: 000003

建物名: 伏図次郎【2階】

## ■ 2階X方向

通り	Y座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心Y座標	ねじり剛性
	A	B	C	D=B×C	A×D	E=(口)÷(イ)	D×(A-E) <sup>2</sup>
y0	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.64	24.11
y0	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.64	24.11
y0	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.64	24.11
y4	3.640	2.00	0.910	1.82	6.62	3.64	0.00
y8	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.64	24.11
y8	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.64	24.11
y8	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.64	24.11
				12.74	46.37		144.69
				イ	口		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

# 偏心率明細表 (2階Y方向)

日付: 2023年07月31日 11:55:21

建物コード: 000003

建物名: 伏図次郎【2階】

## ■2階Y方向

通り	X座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心X座標	ねじり剛性
	A	B	C	D=B×C	A×D	E=(口)÷(イ)	D×(A-E) <sup>2</sup>
x4	3.640	2.00	0.910	1.82	6.62	8.65	45.59
x4	3.640	2.00	0.910	1.82	6.62	8.65	45.59
x6	5.460	2.00	0.910	1.82	9.94	8.65	18.46
x6	5.460	2.00	0.910	1.82	9.94	8.65	18.46
x11	10.010	2.00	1.820	3.64	36.44	8.65	6.78
x11	10.010	2.00	0.910	1.82	18.22	8.65	3.39
x14	12.740	2.00	0.910	1.82	23.19	8.65	30.52
x14	12.740	2.00	0.910	1.82	23.19	8.65	30.52
x14	12.740	2.00	0.910	1.82	23.19	8.65	30.52
				18.20	157.34		229.84
				イ	口		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。



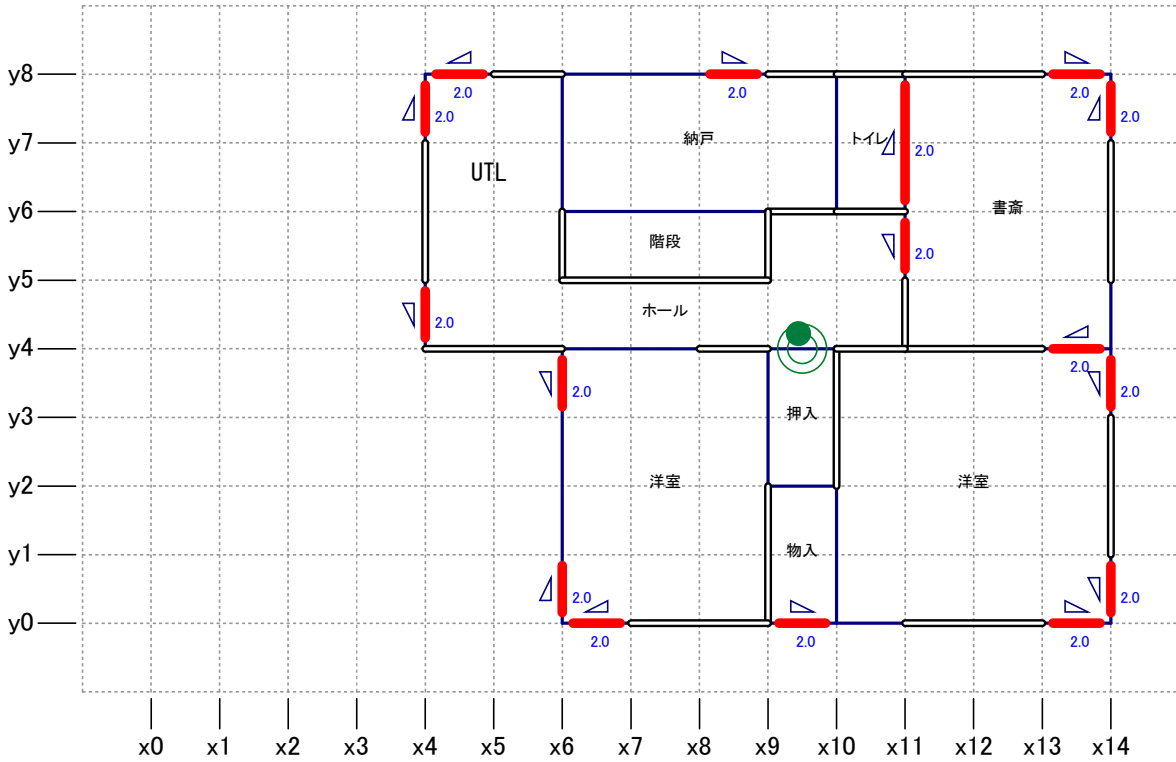
# 偏心率平面図

日付: 2023年07月31日 11:55:21

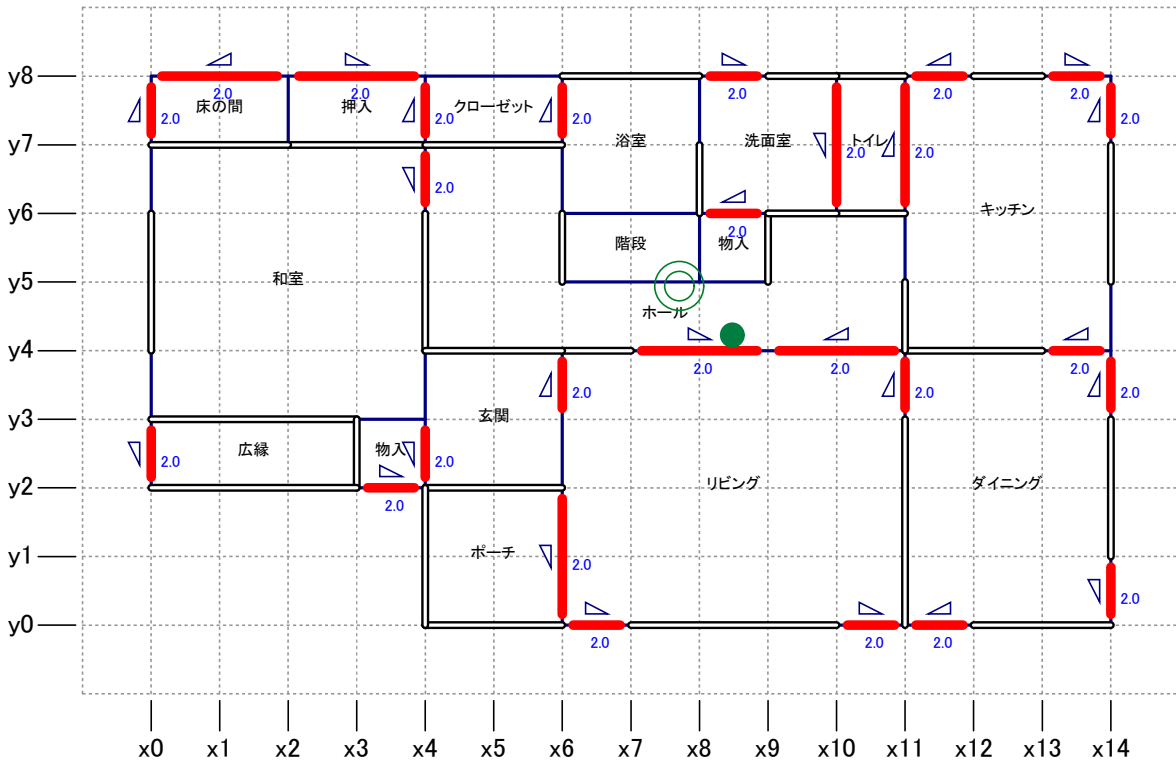
建物コード: 000003

建物名: 伏図次郎【2階】

2階



1階



縮尺 1/100

- 凡例
- 一般壁
  - 開口部
  - 面材耐力壁
  - 筋かいダブル
  - 小屋裏収納等
  - 重心
  - 剛心
  - △ 柱頭
  - △ 柱脚
  - △ 筋かいシングル

# 【建築基準法】四分割法

建物名 伏図次郎【2階】

---

四分割法判定表

四分割法存在壁量明細表

四分割法平面図

四分割法床面積根拠図

四分割法床面積計算表

■注意事項

- ・平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づき、壁量充足率および壁率比を用いて軸組を釣合い良く配置する方法に準拠した計算を行います。
- ・四分割法と偏心率の判定結果については、平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」により、いずれかの判定が適合となること、とされています。

株式会社インテグラルー級建築士事務所

〒305-0818

茨城県つくば市学園南2丁目7番地

TEL:029-850-3331 FAX:029-850-3334

<https://www.homeskun.com/>

# 注意事項



ホームズ君「構造EX」(以下、本ソフトウェア)は、公益財団法人日本住宅・木材技術センターが実施している「木造建築物電算プログラム認定」において、関係法令や評価方法基準に準拠しているとして、認定書(認定番号:P04-02)の交付を受けております。  
認定対象の計算書・図面には用紙右上に「木造建築物電算プログラム認定」の認定番号が印字されます。

## 【認定の範囲】

本ソフトウェアの認定の範囲を下表にて示します。本ソフトウェアの全機能が認定対象ではありませんのでご注意ください。本ソフトウェアの利用者、並びに本ソフトウェアの計算結果を確認する立場の方は、認定の範囲を十分理解の上、ご利用いただきますようお願いいたします。

### ▼本ソフトウェアの全機能における認定の範囲

●: 認定対象    -: 認定対象外

分類	認定範囲	機能	関係法令等
建築基準法	●	壁量計算	建築基準法施行令第46条「構造耐力上必要な軸組等」第4項
	●	壁の配置(偏心率)	平12建告1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」
	●	壁の配置(四分割法)	平12建告1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」
	●	接合部(筋かい、柱頭柱脚)	平12建告1460号「木造の継手及び仕口の構造方法を求める件」
	-	シックハウス	
住宅性能表示 構造の安定	●	性能表示壁量計算	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ①
	●	床倍率	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ②③
	●	壁の配置(偏心率)	平12建告1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」
	●	壁の配置(四分割法)	平12建告1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」
	●	接合部(筋かい、柱頭柱脚)	平12建告1460号「木造の継手及び仕口の構造方法を求める件」
	●	接合部(通し柱、外周横架材)	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ④
	●	横架材のチェック	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ、1-2(3)ホ、1-4(3)ホ
	●	基礎のチェック	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ、1-2(3)ホ、1-4(3)ホ
住宅性能表示 その他	-	火災時の安全	
	-	劣化の軽減	
	-	維持管理	
	-	温熱環境	
	-	空気環境	
	-	光・視環境	
	-	音環境	
	-	高齢者	
その他機能	-	防犯	
	-	伏図作成機能	
	●	梁せい算定機能	平13国告第1347号「評価方法基準」第5 1-1(3)ホ、1-2(3)ホ、1-4(3)ホ
	-	等級ナビ	
	-	3D地震被害想定	
-	構造安全性チェック		

## 【木造建築物電算プログラム認定とは】

公益財団法人日本住宅・木材技術センターが実施しているプログラム認定制度です。  
目的は、木造建築物電算プログラムに係る認定を行うことを通じて、木造建築物の品質性能および生産性の向上に寄与し、もって木造建築物の関連産業の発展と国民生活の向上に貢献することとなっています。  
認定にあたっては、学識経験者で構成する「木造建築物電算プログラム認定委員会」が設置され電算プログラムの適切さ(根拠図書との準拠性、プログラム処理の妥当性、誤用防止策等)や運用の適切さ(メンテナンスや苦情処理体制等)について審査が行われます。

# 注意事項



P04-02

## 【建築基準法の計算上の注意点】

- ・ 建築基準法の各判定（建築基準法壁量計算、偏心率、四分割法、柱頭柱脚接合部、筋かい接合部）を行う際の条件や注意点については、各帳票の表紙に注意事項として明記しています。
- ・ 建築基準法の各判定を行う際の耐力壁の壁倍率の扱いは以下の通りです。  
○建築基準法壁量計算：上限5.0倍（合計値）   ○偏心率                    : 上限7.0倍（合計値）  
○四分割法                                    : 上限5.0倍（合計値）   ○柱頭柱脚接合部：上限7.0倍（合計値）
- ・ 建築基準法壁量計算においては設計者が任意に耐力壁を追加することができます。追加した耐力壁は帳票『存在壁量明細表』において国土交通大臣の認定番号が明記されるので確認ください。
- ・ 柱頭柱脚接合部および筋かい接合部判定においては、設計者が任意に接合金物を追加することができます。追加した接合金物は『使用金物一覧』において、木造建築物用接合金物認定などの認定番号が明記されるので確認ください。

## 四分割法判定表

日付: 2023年07月31日 11:55:21

建物コード: 000003

建物名: 伏図次郎【2階】

## ■ 建物情報

屋根の重さ	軽い屋根
建物の階数	2階建て

## ■ 壁量係数

壁量係数	軽い屋根	重い屋根
2階建の2階	15	21
2階建の1階	29	33
平屋建てまたは下屋	11	15

## ■ 建物長さ1/4長さ

階	方向	全長(m)	1/4長さ(m)
2	X	9.100	2.275
	Y	7.280	1.820
1	X	12.740	3.185
	Y	7.280	1.820

## ■ 使用壁材一覧

材種名	壁倍率	注意事項
筋かい(45×90)(たすき掛け)	2.0(4.0)	

・設計者が任意に追加した材種の行は網掛け( )で表示されます。

## ■ 判定

階	方向	位置	有効面積 (㎡)	壁量係数 (cm/㎡)	地盤割増	必要壁量 (cm)	存在壁量 (cm)	壁量充足率 ⑥=⑤÷④	A			B		C
									充足率 判定	壁率比	壁率比 判定	判定		
			①	②	③	④=①×②×③	⑤	⑥=⑤÷④	⑥>1.00	⑦=⑥小÷⑥大	⑦≥0.5	AorB=○		
2	X	上	16.57	15	1.0	248.55	546.00	2.19	○	-	-	○		
		下	13.25	15	1.0	198.75	546.00	2.74	○	-	-	○		
	Y	左	9.94	15	1.0	149.10	728.00	4.88	○	-	-	○		
		右	16.57	15	1.0	248.55	546.00	2.19	○	-	-	○		
1	X	上	23.19	29	1.0	672.51	1456.00	2.16	○	-	-	○		
		下	16.57	29	1.0	480.53	728.00	1.51	○	-	-	○		
	Y	左	17.40	*11	1.0	191.40	364.00	1.90	○	-	-	○		
		右	23.19	29	1.0	672.51	1092.00	1.62	○	-	-	○		

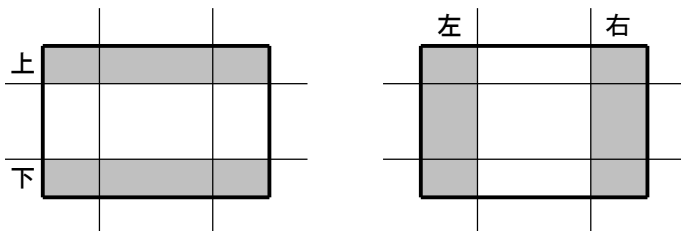
・①有効面積は建物の幅、奥行き長さを1/4分割した部分の面積です。  
跳ね出しバルコニーは該当面積の40%を1階の有効面積に加算します。  
側端部分が複数に分かれている場合は△マークで表します。偏心率により壁の配置バランスを検討してください。

- ・②壁量係数欄の\*は、「平屋建てまたは下屋」の係数を用いたことを表します。
- ・⑤存在壁量は、「四分割法存在壁量明細表」を参照ください。
- ・充足率判定が×の場合は、壁率比判定を行います。

## 【四分割法判定】

判定がすべて“○”の場合 → 適合  
判定がひとつでも“×”の場合 → 不適合

## 【四分割範囲】



四分割法判定

適合



# 四分割法存在壁量明細表 (2階)

日付: 2023年07月31日 11:55:21

建物コード: 000003

建物名: 伏図次郎【2階】

## ■2階X方向上の存在壁量(cm)

上	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	y8	182.00	182.00	182.00										
上 壁量合計(cm)													546.00	

## ■2階X方向下の存在壁量(cm)

下	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	y0	182.00	182.00	182.00										
下 壁量合計(cm)													546.00	

## ■2階Y方向左の存在壁量(cm)

左	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	x4	182.00	182.00											
x6	182.00	182.00												364.00
左 壁量合計(cm)													728.00	

## ■2階Y方向右の存在壁量(cm)

右	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	x14	182.00	182.00	182.00										
右 壁量合計(cm)													546.00	

- ・建物長さをそれぞれの方向で1/4境界線で分割した上下左右の区画に含まれる壁量を集計します。
- ・各通りに存在する耐力壁(筋かい・面材)毎の存在壁量を壁1、壁2、…と表示しています。  
(存在壁量 = 耐力壁の壁倍率 × 長さ とします)





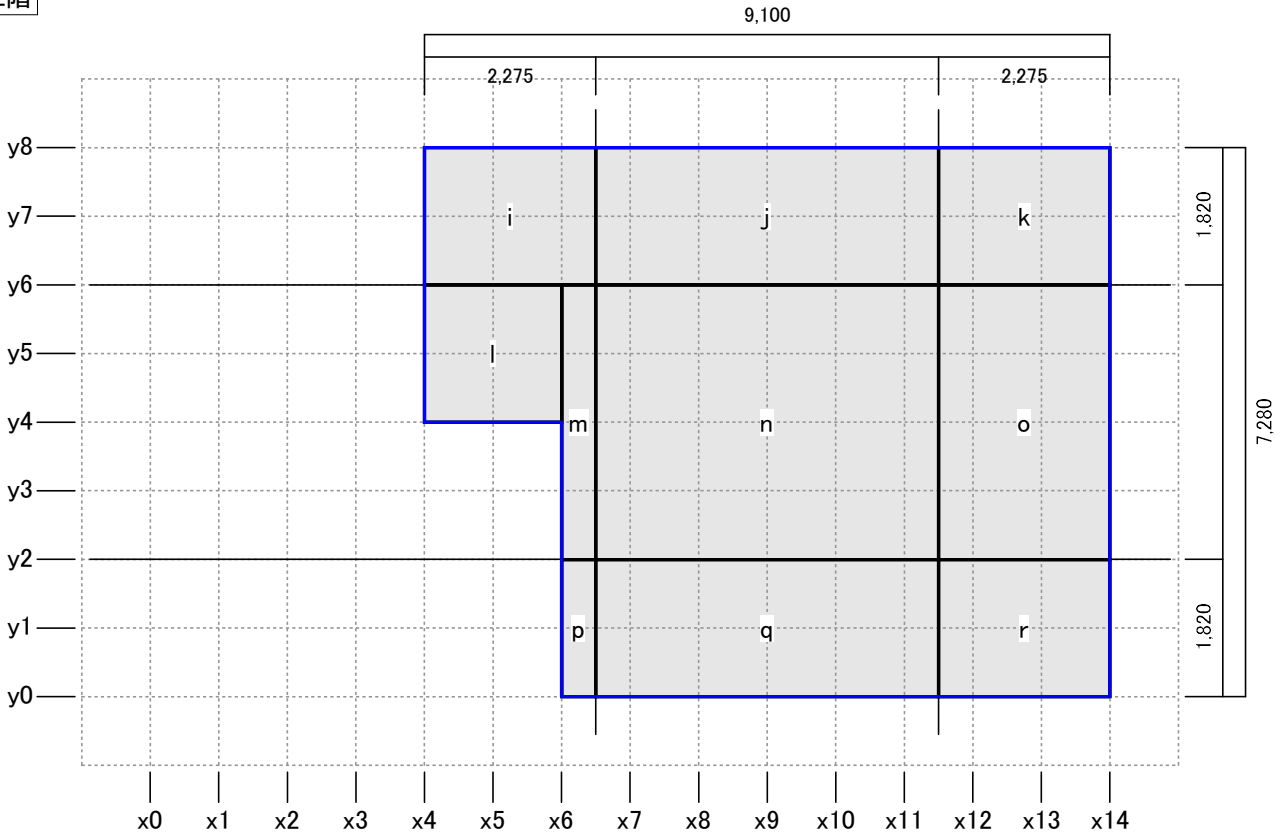
# 四分割法床面積根拠図

日付: 2023年07月31日 11:55:21

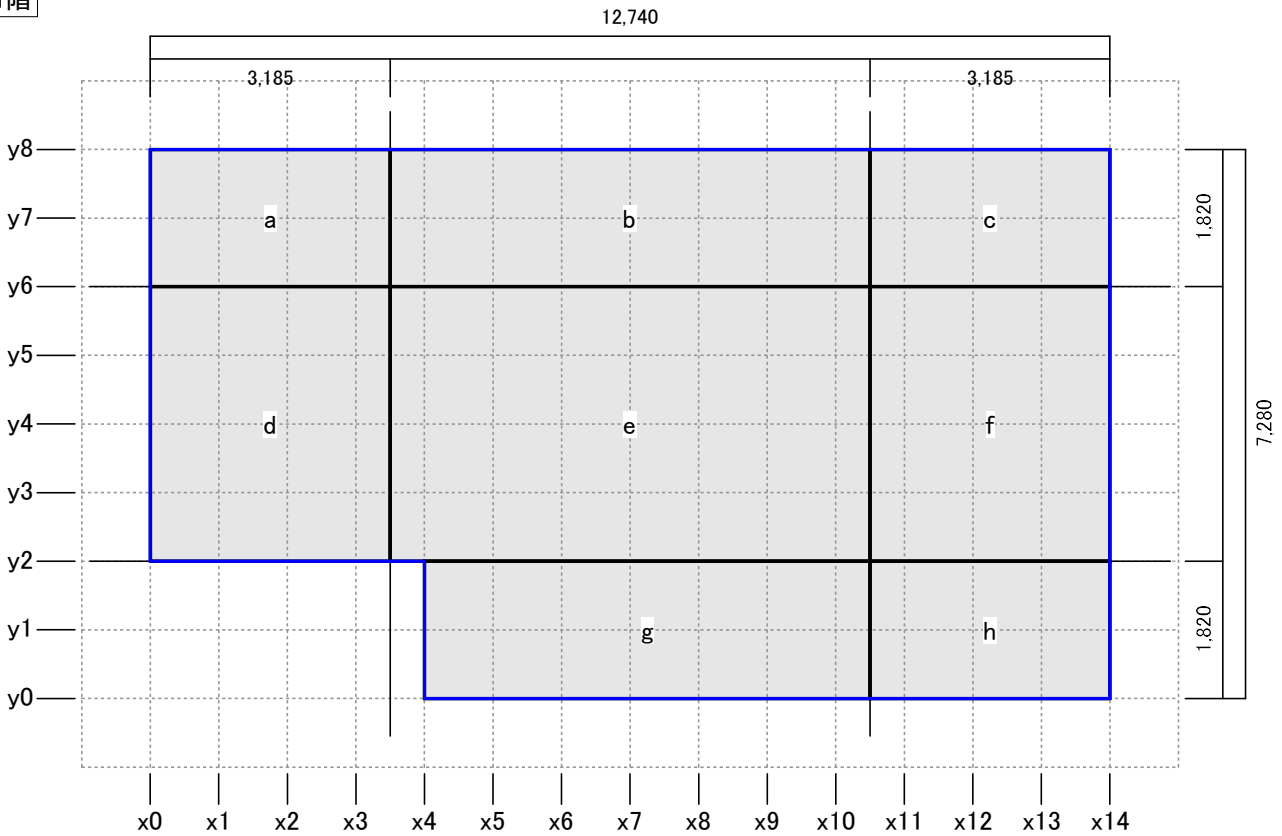
建物コード: 000003

建物名: 伏図次郎【2階】

2階



1階



縮尺 1/100

- 凡例
- 床面積区画
  - オーバーハング
  - バルコニー
  - a b c ..... 床面積区画名
  - Ba Bb Bc ..... 床面積区画名(バルコニー)

## 四分除法床面積計算表

日付: 2023年07月31日 11:55:21

建物コード: 000003

建物名: 伏図次郎【2階】

## ■ブロック別床面積計算表

[1階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
a	1.820	3.185	5.7967000	
b	1.820	6.370	11.5934000	
c	1.820	3.185	5.7967000	
d	3.640	3.185	11.5934000	
e	3.640	6.370	23.1868000	
f	3.640	3.185	11.5934000	
g	1.820	5.915	10.7653000	
h	1.820	3.185	5.7967000	

[2階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
i	1.820	2.275	4.1405000	
j	1.820	4.550	8.2810000	
k	1.820	2.275	4.1405000	
l	1.820	1.820	3.3124000	
m	3.640	0.455	1.6562000	
n	3.640	4.550	16.5620000	
o	3.640	2.275	8.2810000	
p	1.820	0.455	0.8281000	
q	1.820	4.550	8.2810000	
r	1.820	2.275	4.1405000	

## ■四分割対象面積

階	方向	位置	計算式	面積 (㎡)
2	X	上	(i+j+k)	16.57
		下	(p+q+r)	13.25
	Y	左	(i+l+m+p)	9.94
		右	(k+o+r)	16.57
1	X	上	(a+b+c)	23.19
		下	(g+h)	16.57
	Y	左	(a+d)	17.40
		右	(c+f+h)	23.19

## ■記号の説明

- 「備考」:
- → 跳ね出しバルコニー範囲(跳ね出し部分面積×0.4)
  - ◇ → 小屋裏収納等範囲(小屋裏収納等の水平投影面積×1.4÷2.1)
  - ◆ → 小屋裏収納等重複範囲(小屋裏収納等の水平投影面積×1.4÷2.1×2)
  - ▲ → 三角形区画